

# きれいな水をを守るため わたしたちができること

## 七滝山は国内最大規模の 水源涵養保安林

寛文3年（1663年）、七滝山は水不足のため「水野目山」に指定されました。「水野目山」とは灌漑用水を確保するために利用を制限されていた森林のことで、伐採や下枝も刈ってはならないことになっていたそうです。寛政12年（1800年）、この「水野目山」を現在の千畑、六郷、仙南地区にあたる当時の17ヶ村が水源確保のために買取り、用水を管理することになりました。これが七滝土地改良区の始まりです。その後、水源組合が組織され、明治30年には「水野目山」から「水源涵養保安林」と表記されるようになりました。現在も七滝土地改良区では美郷町や大仙市の一部で使われている用水の管理をしています。また、保有する水源涵養保安林は約251ヘクタールで、国内では最大規模の面積とされています。



## わたしたちの生活を守る「水源の森」

七滝の水源涵養保安林のうち、約46パーセントを杉の人工林が、残りの54パーセントをブナなどの広葉樹林が占めています。七滝土地改良区では自然環境保全のためにブナやケヤキ、ダケカンバなどの広葉樹を植樹しています。実はこの広葉樹が私たちの生活を守る大切な役割を果たしています。広葉樹は保水力が高いため、山にたぐさんの水を蓄えることができます。また、地面に落ちた葉は腐葉土になるので、そこにもたくさん水が蓄えられます。

この保水力の高い広葉樹林から出る水が扇状地の末端にある六郷地区の清水や地下水を潤しています。冬場の消雪や防火用水としても七滝の用水が使われています。もちろん、農業用水としてもそうです。千畑、仙南地区の一部でも七滝用水が田んぼを潤し、たくさん米を育てています。「水源の森」を守ることは私たちの生活を守ることもつながっているのです。

## 水の大切さを知る

平成元年に干ばつが起きました。県内では農業用水が不足して54市町村（当時）で水田に亀裂が入るなどの被害を受けました。現在の千畑地区と、仙南地区の一部の水田には井戸をつかせるほど水が足りない状態でした。この出来事は水の大切さを考える大きなきっかけとなりました。

平成11年からは、つくば市と町内の子供たちによる水環境学習交流が始まりました。子供たちには七滝保安林を見学させています。つくば市と町内の子供たち、それぞれが見学している姿を見てみると、水に対する意識の違いに「はっと」させられます。



▲七滝土地改良区 藤岡 義博さん

## 月1回の講座を受講して「水環境マイスター」を目指しませんか

第2回（7月開催分） テーマ「おいしい水と飲む水」

講師：環境カウンセラー 津村 守氏

日 時 ● 7月31日（土）  
午後1時30分～午後4時30分  
場 所 ● 中央ふれあい館ホール（旧清水苑）  
申込期限 ● 7月22日（休）  
申込方法 ● 電話でお申し込みください  
申込・問 ● 住民生活課 環境安全班  
☎ 0187-84-4903



▲昨年の様子

第3回以降の予定は次のとおりです。

詳細は広報誌でお知らせします。

第3回（8月下旬予定）「水は森のおくりもの」

第4回（9月予定）「ハリザッコのすべて」